

中央区協働推進会議（第5回）議事要旨

1. 日時

平成20年6月13日（金）14：00～16：00

2. 場所

中央区役所別館6階A会議室

3. 出席者

【委員】

瀧澤利行（会長）、山岸秀雄（副会長）、山井理恵、古澤悦子、安鳶潔、豊田正文、小泉典久

【事務局】

地域振興課長、協働推進主査

（主な議題）

1. 今後のスケジュールについて
 2. 協働の仕組みづくりについて
 3. 協働事業の評価について
 4. 協働のための人材育成方法について
-

〔議事の経過〕

- 1 今後のスケジュールについて、会議を1回増やして、引き続き課題について検討した上で中間報告の骨子の検討に入ることが会長より提案され、了承された。
- 2 協働の仕組みづくりについて資料に基づき事務局から説明がなされ、その後、協働の仕組みづくり、協働事業の評価、人材育成について意見交換が行われた。委員からの主な意見等は以下のとおりである。

（1）協働の仕組みづくりについて

- ・ 自由提案型では、NPO側では問題意識はあったが、行政では意識しなかった問題が新しい課題として当然出てくるだろう。
- ・ やれるかやれないかは別として、入り口を閉ざしてしまうよりは、間口は広げておいたほうがいい。
- ・ 中間的な窓口を一つにするというのは大事だと思う。市民団体が申請するものを中間的な窓口でコーディネートして、一番効率のいい方法をとっていくとよい。
- ・ 選定方法については、庁内合意の前段階で中間支援機関がかかわる。査定や予算枠の確保については、中間報告後、最終報告に向けての整理の課題になると思う。

(2) 協働事業の評価について

- ・ これは実際に事業の枠組みが決まらないと具体的に議論できない。
- ・ 区の施設の指定管理者制度では評価も毎年行っているのので、そうしたものを参考にしながら、定期的な評価、マネジメントサイクルをつなげていくような仕組みを構築していかなければならない。

(3) 協働のための人材育成方法について

- ・ 事例を見ると、サポーター養成講座等を行い、講座の卒業生ないしそれに準じた人にサポーターになってもらうというところが多い。ただし、講座イコール人材育成になるわけではなく、ある程度継続的な支援が必要である。また、相談をする人の相談に乗るようなスーパーバイザーも必要である。
- ・ 最近では、人材育成をカルチャーセンター型、教養型でなく、行政と協働が組めるようなNPOを育成するような形でやってほしいという要請が多い。
- ・ 中央区が今の持っているキャパシティだけでやるのか。もう少し、学校や大学などの研究機関、あるいは既存の中間支援組織とのつながりでやっていくのかは、今後の課題である。

3 次回会議については、7月31日（木）14時30分から行われることとなった。